

# しず老施協

## 巻頭言



## 「県西部地域内有料老人ホーム・グループホームで発生したクラスター感染への応援職員派遣調整について」

県老施協副会長（西部支部長） 溝口 宜弘  
（特別養護老人ホームかけがわ苑 施設長）

新型コロナウイルス感染症発生が一向に終息に辿り着けない中、去る11月初旬に浜松市内のグループホーム及び系列有料老人ホームで相次いで感染クラスターが発生したことから、県老施協では、対応の方向性に関する幾度かの協議を経て、施設利用者及び職員の罹患等による運営体制の逼迫を補完するための支援要請に応じることと致しました。

折しもこのような事態を想定し、令和2年6月末から老施協会員相互の応援体制整備の検討を進めていたこともあり、未完成ではありながらも事態に対応する各種要綱、要領の大方が出来上がっていたことは、応援職員の派遣調整を進める上で大変有効であったと思っております。

会員施設では、日頃より感染予防対策に万全を期すこと、発生時対応及びその後の事業継続に対してもマニュアルを準備する等取組強化に余念がない状況下と推察致します。そのような対応に追われる中、今般応援職員を登録して下さった会員施設におかれましては、応援派遣が要請された場合、速やかな派遣準備を進めて戴くことが必要となります。さらに県老施協支部長、支部ブロック長等に就かれている施設長には、要請人員の確保に向けた速やかな調整が求められます。感染発生に関連して様々な立場での役割と行動要請が、まさに突然に訪れることが現実です。

今回の事態に対する応援職員派遣調整では、会長をはじめ県老施協事務局、会員施設及び所属される職員各位の高い連帯意識、人道的支援への思いに支えられ、積極的に派遣協力を戴けたことで、早期に人員確保ができ、要請施設の期待に応えられたことには改めて心より感謝申し上げます。

今般、県下で最初となるコロナ感染症発生施設への応援職員の派遣調整に携わらせて戴いたことで、感染発生施設の逼迫した状況や、応援要請書を作成、提出するまでの状況収集の難しさ、応援職員派遣元施設としての登録職員送り出しまでのご労苦、県当局及び県社協等関係機関の連携調整実態等について知る機会を得たことに加え、短期間で結果を出さなくてはならない調整マネジメントの難しさを学ぶことができました。その学びの中から、今後発生が懸念される様々な状況に備え、会員施設の皆様には是非、県老施協が編纂した「新型コロナウイルス感染症発生施設への応援職員派遣に係る実施要綱」、「応援職員の派遣に係る調整要綱」及び「応援職員の派遣に係る取扱要領」については今一度お目通しをお願いしたいと存じます。

クラスター発生は今やいずれの場所でも起こり得ます。事態発生に際して求められる応援体制の充実に向け、会員皆様のご理解ご協力を引き続き宜しくお願い申し上げます。

# クラスター発生施設に応援職員を派遣して



社会福祉法人 七恵会 理事長  
特別養護老人ホーム浜松中央長上苑  
施設長 増田 公基

この度のコロナ感染施設への応援職員派遣にあたって、老施協の一員として役割を果たせたことに安堵しています。

さて、今回の派遣にあたっては不安もありました。感染施設に入ることとなったこと、その感染施設の感染対策状況が明確でなかったことなど、職員の安全確保の観点から派遣してよいものか悩みました。職員本人が不安を感じるようであれば派遣を見合わせようとも考えました。ところが職員は「貴重な体験になると思う。行きます。」と言ってくれ、派遣を決めることとなりました。

古い話になりますが、私は阪神大震災の際に支援に入ったことがありました。その時被災地で、被災者の深い悲しみとそれを内に秘めた強さを知ると同時に、自身の弱さを思い知らされました。その経験は今でも人生の大きな糧となっています。今回の派遣が、派遣職員にとっても「糧」になってくれればと考えています。

このような機会が与えられたことを嬉しく思うとともに、共に派遣されました西島寮様、さぎの宮寮様をはじめ老施協他多くの関係者のご尽力により派遣が無事に完了できましたことを感謝いたします。



特別養護老人ホーム第二長上苑  
施設長 水谷 秀夫

令和2年11月6日に当施設がある浜松市東区内の有料老人ホームにてクラスターが発生いたしました。次の日、11月7日に理事長より「応援派遣依頼があるかもしれない」との連絡がありました。どこから、どのような内容で依頼がくるのかは明確ではなかったですが、派遣予定の職員には準備をするように指示いたしました。また、この時点では県としての体制も明確ではなかった事と、法人内でも応援派遣における規定等も検討中であったので、急遽法人内で規定を策定いたしました。

そして、11月12日に理事長より正式に派遣依頼がありましたので、職員に派遣についての説明を行いました。内心忍びない思いはありましたが、職員から「困ったときには互いに助け合うことが必要ですね」との言葉がありました。その言葉を聞いた時に私自身も派遣の決意が固まりました。そして、11月16日～11月20日まで応援派遣として勤務し、その後12月4日までは待機期間となり、この19日間は自宅に帰ることなくホテルに滞在することになりました。そのため、孤独にならないようにと派遣、待機期間には毎日、職員と電話またはメールで連絡を取り合いました。

今回は初めての応援派遣であったため、体制の不十分さもありましたが、応援派遣に行った職員が「勉強になりました」と言ってくれたことが、当施設の大きな財産となりました。また、このような事態がいつ起こるかわかりませんが、この先も、支え合っていくことを大切に参りたいと思っています。

# 感染施設での現状とその中で働く職員、私の気持ち



第二長上苑  
横田 智之

11月の4日間、応援派遣として行ってきました。クラスターが起きた施設の中は濃厚接触者と非感染者と一緒に暮らしており、利用者の自由は限りなく制限されていました。施設職員は濃厚接触者の対応や施設内の清掃消毒を行っており、非感染者とのかかわりは避けているとのことでした。そのため、応援職員は日々の清掃・消毒、非感染者へのレクリエーションが仕事でした。

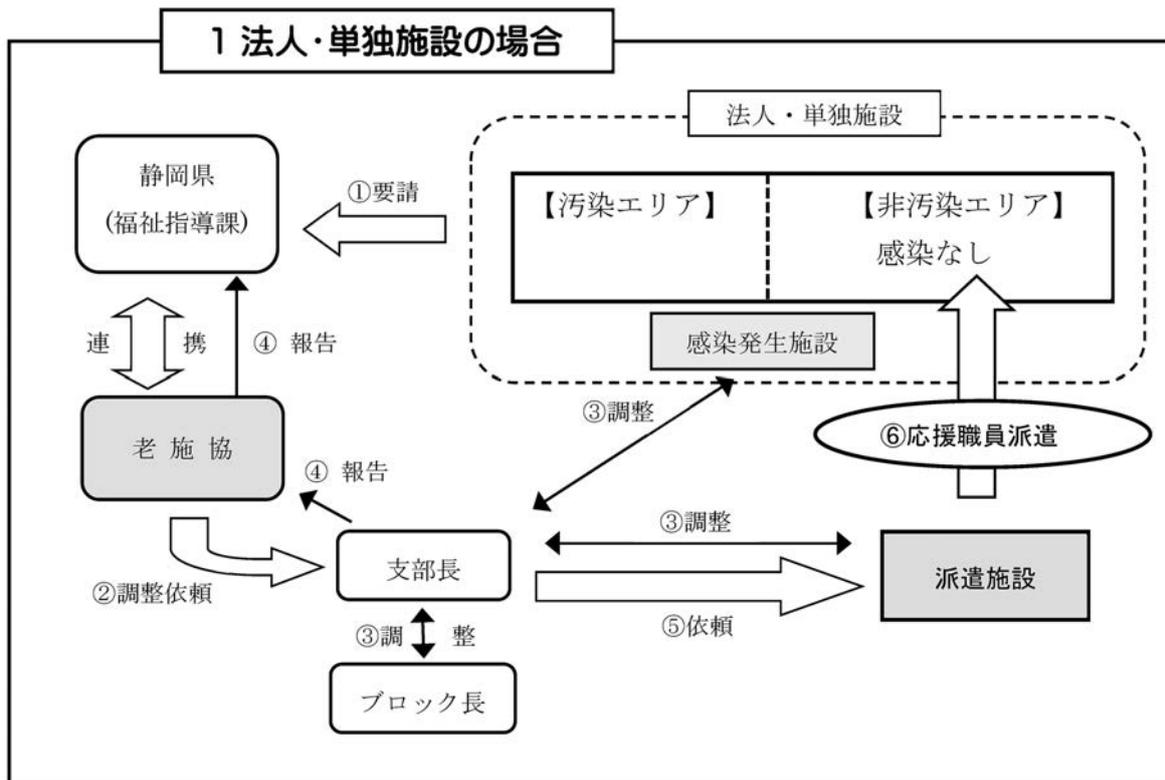
職員が媒介者にならないために限定された職員だけが濃厚接触者に関わっていました。作業は物品を2つ用意、無い場合は順番を決め使用、同じものを使用しないようにシールを貼って区別する、居室ドアにシールを貼りその方の状況を把握する、時間をずらした一日の動き、重ならない導線・配置など日々目まぐるしく変化がありました。知らない方々と共に働くなかで細かいコミュニケーションをとりながら、「昨日はこのような働いていたよ」「ここは済んでいるから向こ

うをお願い」など声を掛け合い、情報の共有と正確に翌日の職員に伝達し、業務が滞りなく続けられるよう連携を図りました。

初日に陣頭指揮をとる施設長から「施設で暮らしている利用者様の心のケアをしてほしい。」とお話がありました。業務や対応に追われ、そこに暮らしている方たちの心が忘れ去られないよう、心のケアを大切に、心の拠り所になっていく必要性を改めて感じることができました。自分自身の心の成長に繋がった機会を与えてくださり、感謝しています。



## ○応援職員派遣スキーム



## 新型コロナウイルス感染症発生に対応する BCP作成のための研修会を実施して



社会福祉法人 同愛会  
常務理事

菊地 月香

私は栃木県にある社会福祉法人同愛会の菊地と申します。

今回、静岡県老協の企画経営委員会大塚委員長様から、高齢者福祉施設のBCPについて、リモートでの研修会の講師の依頼があり、12月8日に実施しました。

BCPとは（Business Continuity Plan）の略で、事故や災害等の緊急事態が発生した際に事業の継続または早期再開が果たせるよう、損害を最小限にとどめ、中核となる事業の継続・早期復旧を可能とするための計画です。

我々社会福祉施設においては、利用者の生命、生活の維持、職員の安全管理、さらには地域や関係機関への協力・連携を果たすため取り組むものとされています。

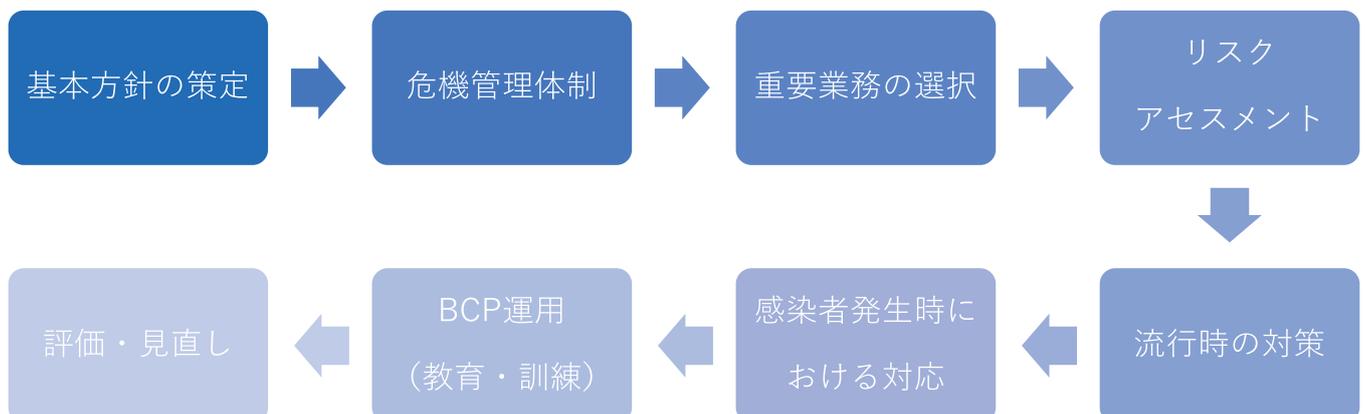
静岡県においては、全国に先駆けて応援派遣のスキームが構築・実施され、「感染症クラスター対策マニュアル」も公開されていることから、ご存知の方も多いたと思いますが、BCPを策定する上では、図①のようなプロセスで取り組みます。なかでも最も大切なこ

とが、作成したBCPの運用、評価、見直しです。組織内に浸透させていくためにも、運用、教育、訓練、そして評価、見直しを繰り返し、定着させていくことが大切であり、それがBCPにより実効性を持たせた運用マネジメントシステムである、BCMの推進につながります。

新型コロナウイルス感染症によるクラスター等が発生した場合、事業の継続に大きな影響を与える重要な経営資源として福祉サービスでは、一般的に「ヒト、モノ、情報、カネ」と言われ、それらがボトルネック資源に該当します。

有事の際、運営の継続あるいは優先すべき事業を継続していくため、丁寧かつ具体的にリスクをアセスメントし、ボトルネック資源を確保するための対策を検討しなければなりません。

具体的には、利用者等に陽性者が発生した際の業務内容や職員が出勤できない場合のサービス提供体制確保、あるいは業務を遂行する、適切なケアを提供する上での衛生機材等の継続的な調達方法や備蓄品の管



図①

理、活用方法、取引先等へ事業継続の働き掛けなどが挙げられます。

クラスター等が発生すると、業務委託先や出入り業者がストップすることもあるため、事前に協議をし、対応が難しい場合は代替策も検討します。

また、業務委託先や出入り業者において職場内感染等が発生し、取引ができない状況を想定した対策も事前に考えておく必要があります。

緊急事態が発生した場合、事業所内あるいは法人内で対応への指揮命令や情報の管理・共有、外部との調整等を行うための対策本部設置が有効です。

対策本部設置時の役割分担・体制等の検討を行う上では、初動対応等において指示を出す、あるいは率先して現場で業務を遂行できる職員を位置づけます。平常時とは異なる情報収集や迅速な意思決定が求められるため、責任と同時に権限が付与されることも想定し、それらを担える人材の配置と育成が肝要です。初動時は即決、即行動できるよう、感染症対策計画やマニユ

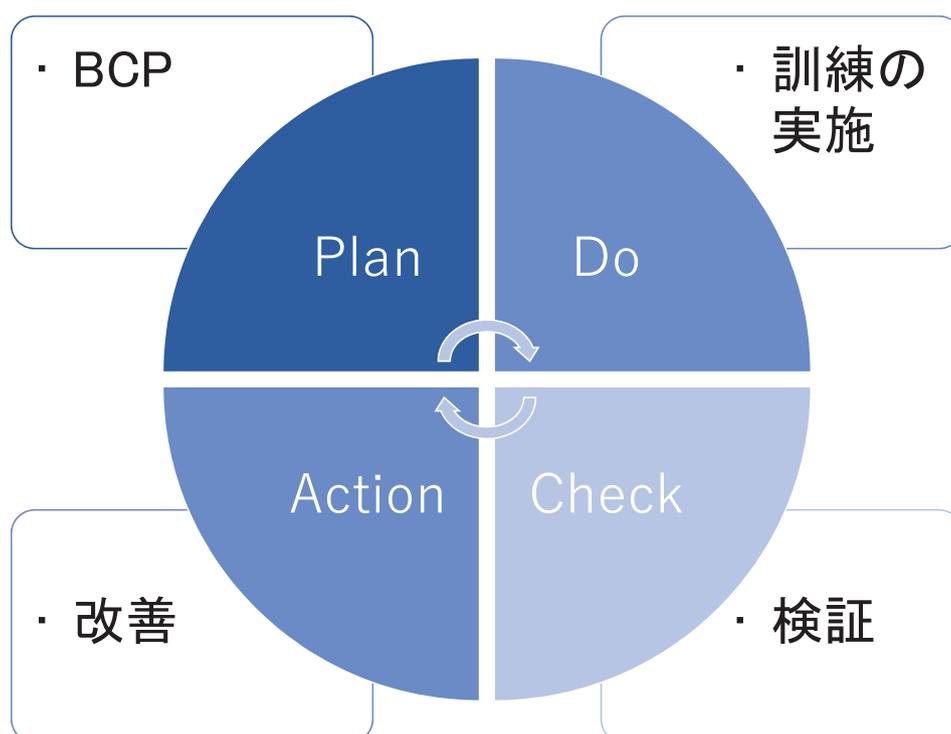
アルと連動させることが大切です。

感染拡大を防ぐためには、BCPにおいてゾーニングシミュレーションを行います。ゾーニングは个人防护具（PPE）着脱ルール等も踏まえ、施設内を感染区域であるレッド、準感染区域であるイエロー、そして非感染区域であるグリーンの3つのゾーンに区分けします。

以上、研修会においてお話しした事項について触れましたが、有事の際は様々な判断や対応に追われるためリスクの具体的なイメージと組織的なBCP策定・浸透を平常時から取り組むことが大切です。

図②に示したとおりBCMの推進に向けては、訓練を通じたBCPの有効性検証、改善点のさらなる計画への落とし込みが求められます。

それらの取組みが不断のマネジメントサイクルであるPDCAサイクルの展開と職員の意識醸成そして育成につながるものと捉えています。



図②

## 介護現場の革新に向けて ～介護ロボット、ICT機器の活用のすすめ～



静岡県健康福祉部  
介護保険課長

浦田卓靖

「介護の職場は慢性的な人手不足となっている。」

私が、平成30年4月に現職に就いて以来、ずっと言われ続けている言葉です。県内の平成30年度の有効求人倍率を見ると、全産業計の1.68倍に対して介護関係は4.58倍であり、令和元年度においても、1.48倍に対して4.64倍と、なるほど、その状況は変わっていないようです。令和2年から3年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により、人手不足に加えて感染防止対策を徹底する必要も加わり、現場の皆様の御苦労は相当なものかと拝察いたします。

なぜ、こうまで人手不足になってしまっているのか。給料が低い、仕事がきついという負のイメージのせいで新規就業者がいない、就業しても先が見通せず、人間関係に疲れて離職してしまう、思った以上に介護業務の負担が大きく身体を壊してしまう、など考えられる原因は様々です。



では、県内の事業所の全てが人手不足に苦しんでいるのでしょうか。実際に現場で働く皆様に様子を教えていただいたところ、多くの事業所ではそのとおりなのですが、人の確保で苦労はしていないというところも少なからずありました。そうした事業所では、学校への出前授業や地域での介護教室の開催、働きやすい多様なシフトや長期休暇の設定、業務改善の提案募集や資格取得の支援等、実に様々な工夫を凝らした取組を進めておられました。

県でも、人手不足の実態を少しでも改善すべく、学童期からの介護現場の体験や若手介護職員からのやりがいのアピール、キャリアパスの整備や人材を育成した上でのマッチング等々、毎年手を変え、品を変えながら人材確保対策に取り組んでいるところです。

その中で、県がここ数年力を入れている事業として「介護分野ICT化等事業費助成」があります。これは、人の手によって支えられてきた介護の業務に、先端技術を取り入れた使いやすい介護機器やシステムを導入し、業務を効率化・省力化することで、職員の皆様の負担軽減を図ることを目的としています。その結果として、働きやすい介護職場を実現し、職員の定着につなげることを目指しています。

平成30年度に介護記録機器や見守り機器を補助対象として以降、令和元年度には業務改善システム、令和

## ○介護分野 I C T 化等事業費助成実績

事業		H30	R 1	R 2
介護記録機器導入促進事業	事業所数	27	6	6
	台数	201	41	40
見守り機器導入促進事業	事業所数	36	82	60
	台数	165	383	181
介護業務改善システム導入促進事業	事業所数	—	13	57
通信環境整備促進事業	事業所数	—	—	10
移乗介助・入浴支援機器導入支援事業	事業所数	—	—	20
	台数	—	—	24

※ R 2 は令和 3 年 1 月 25 日時点の交付決定実績

2 年度には新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためのオンライン面会の環境整備機器や移乗介助・入浴支援機器と、年々対象を拡大してまいりました。これまで多くの事業所で当事業を活用いただき、職員の皆様の利便性の向上のみならず、利用者の安全・安心の確保に役立っていることと思います。

県では、こうした動きをさらに推し進めるため、令和 3 年度から移動支援・排泄支援・コミュニケーション機器を新たに対象に加えることとし、働きやすい職場づくりを幅広く支援してまいります。事業者の皆様には、是非御活用いただきますようお願い申し上げます。

一方で、最新のロボットや I C T 機器を導入することで全てが解決する訳ではありません。新たなテクノロジーはこれまでの業務を楽にしてくれますが、介護

の仕事は人と人の関係が基本であることは変わりません。ツールを上手に活用しながら、利用者に望ましい介護を提供し、職員も気持ちよく働くためには、事業所としてどのような体制や仕組みを整えるべきか。そこまで含めて、介護現場の革新を目指していただくことを御期待申し上げます。



# 新人職員紹介

各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手  
 ④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設（職場）にしていきたいですか  
 ⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか ※氏名はイニシャル表記の方もいます。

## あしたかホーム

(沼津市)



- 武藤秀美 (介護職)  
(ショートステイ)
- ボーナスが入り、貯金ができたこと
- 綾野 剛
- 半分は貯金、もう半分は旅行に使う
- 利用者様に「ショートステイに行って楽しかった」「また来たい」と思っている施設にしたい。
- 法人に高齢者、障害者、子供の施設があり、自分が目標とする様々な分野の勉強をし、経験をしたいと思ったため。



## ぬまづホーム

(沼津市)



- 虻川美月 (介護職員)
- 靴をプレゼントしてもらったこと。
- 百田夏菜子・上戸 彩
- 両親を外国のディズニーに連れて行ってあげたい。欲しい物を買ったり、旅行したい。貯金する。
- 利用者様に“幸せ”と思っていただけるような施設。毎日楽しく過ごすことができる施設。
- 初めの実習をぬまづホームで行い、職員の方々に憧れを抱いたのでこの施設に決めました。



## 白扇閣

(静岡市清水区)



- 大石奈穂 (介護職員)
- 友達が結婚した事
- 嵐
- 実家をリフォームする
- 5月から地域包括支援センターへ異動になるので、気軽に相談してもらえる安心できる場所にしたい。
- 高校生の時の実習で良くして頂き、施設の雰囲気も良かったので迷うことなく選びました。



## あすなろの家

(静岡市清水区)



- Y.A (介護職)
- 7年ぐらい使用していた財布をやっと新しいのに変えられたこと
- 家入レオ
- 世界のディズニー制覇
- 利用者様が笑顔で楽しく過ごせる施設に出来るようにしたいです
- 実習生に来た際に自立支援介護に魅力を感じたのでこの施設にしました



## 朝霧の園

(浜松市西区)



- ペロ アビゲイル ピリアンヌエバ (介護職員) (EPA介護福祉士候補者)
- 新居に引っ越しをしたこと、日本語検定試験2級(N2)に合格したこと。
- J・K・ローリング (ハリーポッターの作家)
- 入居されている利用者様と分ける。
- 新しい技術を活用して長く働ける職場にしたい。
- スキルアップをする為のサポートが充実している。



## 一空園

(浜松市東区)



- 小幡 菜 (ケアワーカー)
- 一人暮らしをしている妹とリモートでゆっくり話せたこと。
- 山崎賢人 (かっこいい！)
- 贅沢はしない!! 家族や親戚に少しづつあげようかな?
- 経験年数に関係なく、仲良くよしだけでなく隔てなく意見が出しあえる仲間でいたい
- 施設全体の雰囲気が実習のときでも、とても良かった。今後、ユニット型が主流となり増えていく中、多床室の経験をしてよかった。



どうぞよろしくお願ひします

## 接遇マナー研修（リモート） を実施して



研修委員会委員長 飯塚辰也  
(特別養護老人ホーム松寿園 施設長)

例年研修委員会主催により開催して好評を得てきた接遇マナー研修は、当初昨年6月に開催する予定でしたが、今年度当初から拡大している新型コロナウイルス感染症の影響により、集合研修は開催しにくい状況であり、どのように実施したらいいか検討を続けてきました。

委員会の際にZOOMを使ってリモートでやってみたらどうかと意見があり、例年研修の講師を依頼してきた講師派遣会社に相談したところ、講師とZOOMのホストなどをお願いすることになりました。会員施設に参加募集をしたところ、62施設から164名の申し込みがあり、1月27日(水)に2時間の研修会を開催しました。

開会の挨拶の後、講師の森田素子インストラクターから、「的確で思いやりのある応対を目指して」をテーマに、前半は社会人としての心構え、施設のご利用者、ご家族との人間関係づくりのための挨拶や表情、身だしなみなど、接遇マナーの基本5原則の大切さと

実践のポイントについて説明がありました。

後半は接遇動作を学ぶために、ご利用者、ご家族への気遣いが伝わる立ち居振舞いを、パソコン画面を通してではありましたが実習して学びました。

リモートの研修は研修委員会では初めての開催であり、施設職員もZOOMに慣れている職員ばかりではないことから、実施について不安もありました。実施中、映像が講師と施設に入れ替わってしまうなど、ミュートの扱いに一部混乱がありましたが、研修は順調に実施されました。

研修後の参加者のアンケートでも、リモートで開催したことにおおむね好評を得て、この研修で学んだことは、日々の業務において実践してみたいなど、前向きな意見をたくさんいただきました。

新型コロナの早期の終息を期待するとともに、今回の研修会の問題点を改善するなどして今後の研修委員会での研修計画に生かしていこうと考えています。



## 感染症発生施設への応援職員派遣訓練を行いました。

新型コロナウイルス感染症発生施設から応援職員の派遣要請があった場合に、派遣調整役を担っていただく各支部長、ブロック長の皆さんを対象に、各支部の役員会の開催に合わせて机上訓練を行いました。

昨年11月に浜松市内で発生した有料老人ホームへの応援派遣の際にコーディネータ役を務めていただいた溝口副会長（西部支部長）に講師をお願いし、浜松での経験談やグループワークにより、応援要請から派遣までの流れや手順の確認を行いました。

参加者の皆さんには応援派遣が円滑にできるよう真剣に訓練に取り組んでいただきました。（老施協事務局）



1月13日 中部支部訓練

### 令和2年度老施協活動報告（令和2年12月1日～令和3年3月31日）

#### 【老施協】 ☆は予定

#### ★12月10日 第3回理事会

委員会委員の補欠の選任、感染症発生施設への応援体制構築、「介護の日」啓発活動、防災訓練の実施状況、豪雨災害義援金の配分等

#### ★2月15日 第6回相談役・正副会長会議

#### ★2月15日 事業推進検討会議

令和3年度支部・委員会活動計画案の調整等

#### ☆3月11日 第4回理事会

#### ☆3月23日 第2回総会

令和2年度一般会計収支補正予算案

令和3年度事業計画案・一般会計収支予算案

#### ※新型コロナウイルス感染症対策

##### ○政党への要望活動

12月10日 自由民主党（県議会）

##### ○会議等

12月10日 第6回感染症発生施設応援体制検討会議

1月13日 第7回感染症発生施設応援体制検討会議

1月13日 感染症発生施設応援職員派遣訓練（中部）

1月29日 感染症発生施設応援職員派遣訓練（西部）

2月9日 感染症発生施設応援職員派遣訓練（東部）

2月15日 第8回感染症発生施設応援体制検討会議

3月11日 第9回感染症発生施設応援体制検討会議

#### 【企画経営委員会】

★12月8日 新型コロナウイルス感染症に対応するBCP作成のための研修会

#### 【広報委員会】

★12月23日 第3回委員会（Web）

『しず老施協』第60号の企画

県老施協ホームページについて

#### 【研修委員会】

★1月26日 第5回委員会（Web）

接遇マナー研修（リモート）について

施設長研修について

★1月27日 接遇マナー研修（リモート）の開催

☆3月10日 施設長研修（リモート）の開催

### 編集後記

1年半程前になりますが、当時芸能人の報道から、なにげなく受けた検診でステージⅠの乳癌が見つかり治療することとなりました。

この経験から感じた3つについてお伝えしたいと思います。1、周囲（家族・職場）への感謝。周囲の人達には心配や迷惑をかけたと思っていますが、温かく見守って支えてくださいました。2、容姿より今やることで精いっぱい。脱毛してもウィッグをつける元気

や余裕もなく、結果帽子が大活躍でした。3、ネット情報。様々な癌経験者の体験を知ることによって心の準備ができました。

この経験から自分が健康で気持ちにゆとりを持って生活できることのありがたさを痛感しました。この得難い経験をもっているいろいろな人に恩返ししていきたいと思っています。

（益田八千代）